

私たちのシュウカツ

安城特別
支援学校の1年

安城市の安城特別支援学校で、卒業後の日々を見据えた授業を取り入れているのは高等部だけではない。小学部や中学部でも、カリキュラムが組まれている。高等部進路担当の加藤昌子教諭は「(高等部)卒業後に進みたい道を自分で決められる力を付けたい」と小、中学部の教員とともに抱く児童、生徒への思いを口にする。

将来への授業 ①

「ゲームを一番目にやりたい子が二人いるね。こういう場合はどうしようか」。二月二日にあった小学部四年一組の「遊びの指導」の授業。担任の杉江紀子教諭が六人の児童に声を掛けた。

小学部では、「遊びの授業」と「日常生活の授業」に重きを置き、時には算数や国語などの教科に及ぶ。

の「遊び」は、新聞紙で作ったボールで的当てゲームに挑戦した。自分で投げるか、ゴム銃(パチンコ)を使うか、ゲームの順番を決めるの



新聞紙のボールを的に当てて遊ぶ児童ら。いずれも安城市の安城特別支援学校で

童もいれば、先生に「どうする?」と問われるまで、なかなか言い出せない児童もいる。やりたい順番がなかった時には、話し合いができるように声を掛ける。この日は男児二人が話し合い、一人が「譲ってあげよう。僕は二番でいいよ」と解決への道を開いた。二人は「ありがとう」「いいよ」と握手した。



順番について話し合う児童ら。ゲームをする

投じたボールを拾う係、ゲーム中に音楽をかける係を決め、ゲーム開始。八球ずつ投げるルールだが、的を打つのが苦手でも「遊び」の時間なら感情を表現しやすいという児童もいる。

小学部教務主任の杉山賀子教諭は「友だちと関わり合いながら成長する。自分の思いを相手に伝えるのも、大切な力です」。高等部卒業の日までに、その子らしく社会で生きていける力を付けたい。杉山教諭は「高等部の教員とも連携しながら、目標を設定していきます」と話した。

遊び楽しみルール学ぶ